

# 重度知的障害者施設における相談援助実習の プログラム開発に関する基礎的研究

国立のぞみの園モデル構築に向けて

原田将寿<sup>1</sup>

柳田正明<sup>2</sup> 岡田みゆき<sup>1</sup>

【要旨】 2008 年の社会福祉士及び介護福祉士法改正により、社会福祉士養成課程新カリキュラムにおける相談援助実習で学ぶべき内容が新たに提示された。それを受け、当法人では 2009 年に実習プログラムの改訂とプログラム・マニュアルの作成を行った。

昨年度は、開発した実習プログラムおよびプログラム・マニュアルの評価・検証を行った。当法人で相談援助実習を行った学生を対象に、実習前、中、後で質問紙調査を行った結果、支援計画の作成や、家族や親族、後見人、利用者の友人を対象とした支援の内容については、実習中だけではなく、実習後の教育機関における指導が必要となることが考えられた。また、実習前に「できている」と評価した項目も、実習中に現実的な課題に直面する中で評価が下がり、終了時に再び高まるパターンも確認された。これは、現実の課題の難しさに関わっていると考えられる。

研究最終年度である今年度は学生のサンプル数を増やし、昨年度の調査結果と併せて、のぞみの園で作成した実習プログラム及びプログラム・マニュアルの内容の妥当性について検証した。

【キーワード】 社会福祉士養成課程 新カリキュラム 相談援助実習 実習プログラム

## I. 経過及び目的

社会福祉専門教育においては、教育機関と実践の場が協働して教育に携わることを重視してきた<sup>1)</sup>。特に実習は重要な手段として位置づけられており、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（以下「のぞみの園」という。）においても、これまでに多くの実習生を受け入れ、教育および人材育成に努めてきた。すでにその積み上げによる産物として「実習の手引き」など、のぞみの園独自の実習マニュアルを作成している。また、専門職養成教育の担うべき役割の重要性を認識しつつ中期計画<sup>1</sup>にもそれを盛り込んでいるところである。

そのような経過、背景にあって、2008 年の社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により、社会福祉士養成課程新カリキュラムにおける相談援助実習で学ぶべき内容が新たに提示された。これを受け、新カリキュラムに合致する相談援助実習（以下「実習」という。）を実施するにあたり3年計画で、実習のプログラムと実習生が実習中に使用するプログラム・マニュアルを作成することとした。

初年の 2008 年度は第1段階として、日本社会福祉事業大学と共同開発体制を組み、新カリキュラム以前に提供していた当法人の実習内容のまま対応できる部分と、新たに追加しなければならない部分を確認することからはじめた<sup>2)3)</sup>。方法としては、のぞみの園の実習指導者に、現在提供している実習内容についてインタビュー調査を実施した<sup>4)</sup>。その結果を踏まえ、それまでの「実習の手引き」を改訂し、新カリキュラムに対応した相談援助実習プログラム及びプログラム・マニュアルを作成した。

<sup>1</sup> 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園企画研究部

<sup>2</sup> 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園参事

2009 年度は第2段階として、初年度に作成した実習プログラムとプログラム・マニュアルを使用して実習を行い、その評価・検証を行うため、のぞみの園で実習した学生を対象に、実習前、中、後それぞれに、質問紙調査を実施した<sup>5)</sup>。

最終年の 2010 年度には第3段階として調査対象人数を増やし、さらなる評価・検証を行った。その結果を基に、相談援助実習プログラム及びプログラム・マニュアルの内容を調整することで、社会福祉士に求められる実践力を養うことができる実習を可能にすることを研究の目的とした。

なお、倫理的配慮として調査の結果を公表する際には、実習生ならびに実習担当教員、機関が特定されることのないようにすることを説明した。また、質問紙への記載内容により、実習評価が下がることはないことを事前に実習生に説明し、書面で同意を得た。本研究は、同意が得られた実習生及び教育機関のみを対象としている。

## Ⅱ. 方法

2009 年度と同様の質問紙調査を、実習前後に実習生 22 人を対象に調査を実施した。前年度の 12 人を含め、34 人の結果に基づいて、検証することとした。質問項目数は 20 項目、4 件法で行った。実施時期は、実習前後とした。

調査対象者は、大学、短期大学、専門学校及び通信教育課程等における社会福祉士養成校において、社会福祉士資格取得課程を選択した学生を対象とした。

また、シラバスは、新、旧カリキュラムを問わず、実習時間についても、90 時間、180 時間の両者とした。(新カリキュラムには移行期間が設定されており、移行後は 180 時間、もしくは 120 時間と 60 時間の組み合わせになるが、現状はこの 90 時間も調査の対象とした。)

## Ⅲ. 結果

中間報告(昨年度)は、学生個々の「実習前中後」の結果から、「指導項目に対しての理解、気づきや学び」について、項目ごとの個別の変化(自己評価)を比較することによって、実習プログラムが新カリキュラムに対応しているか、また実効性のある内容となっているか、実習を通して理解がすすんでいるか、等を検証した。しかしながら、12 人と言う対象人数の少なさ、実習生の個人差、実習場面の違い、実習時間の差、実習指導者の違い等から、その結果が一つの方向性を示すものとは考えにくいものとなった。

今回、22 人の新たなるデータを得た。実習前後の自己評価の項目ごとの集計結果を示したものが図 1 である<sup>Ⅱ)</sup>。実習前に学べると考えていたが、実習後振り返ってみた時に、あまり学べなかったと感じた内容があったことがみてとれる。具体的には、「利用者の家族や親族、後見人」との援助関係の形成、権利擁護や支援、「利用者の友人」を対象とした同様の項目(評価項目 5, 6, 8, 9, 11, 12)が明らかに実習後の評価が低くなっていた。他には、「4 利用者との援助関係の形成」、「7 利用者の権利擁護を行う」、「10 利用者への支援(エンパワメントを含む)とその評価」、「15 社会福祉士としての職員の就業などに関する規定」については、実習本来の課題に関わるものとして難しさがうかがえるが、家族、友人などに関わる項目とは格段の差がある。ただ、昨年度と同様に分析対象には実習時間数の異なる実習生も含んでいるため、プログラムそのものに含まれていない項目があり、「学べなかった」という評価をしているものもある。

実習時間や実習場面の違いはあったとしても、人間関係の形成に係る理解やチームアプローチに係る理解、組織の一員としての役割の理解、社会資源の活用等への理解は、実習を通して理解を深めることができた学生が多かった。

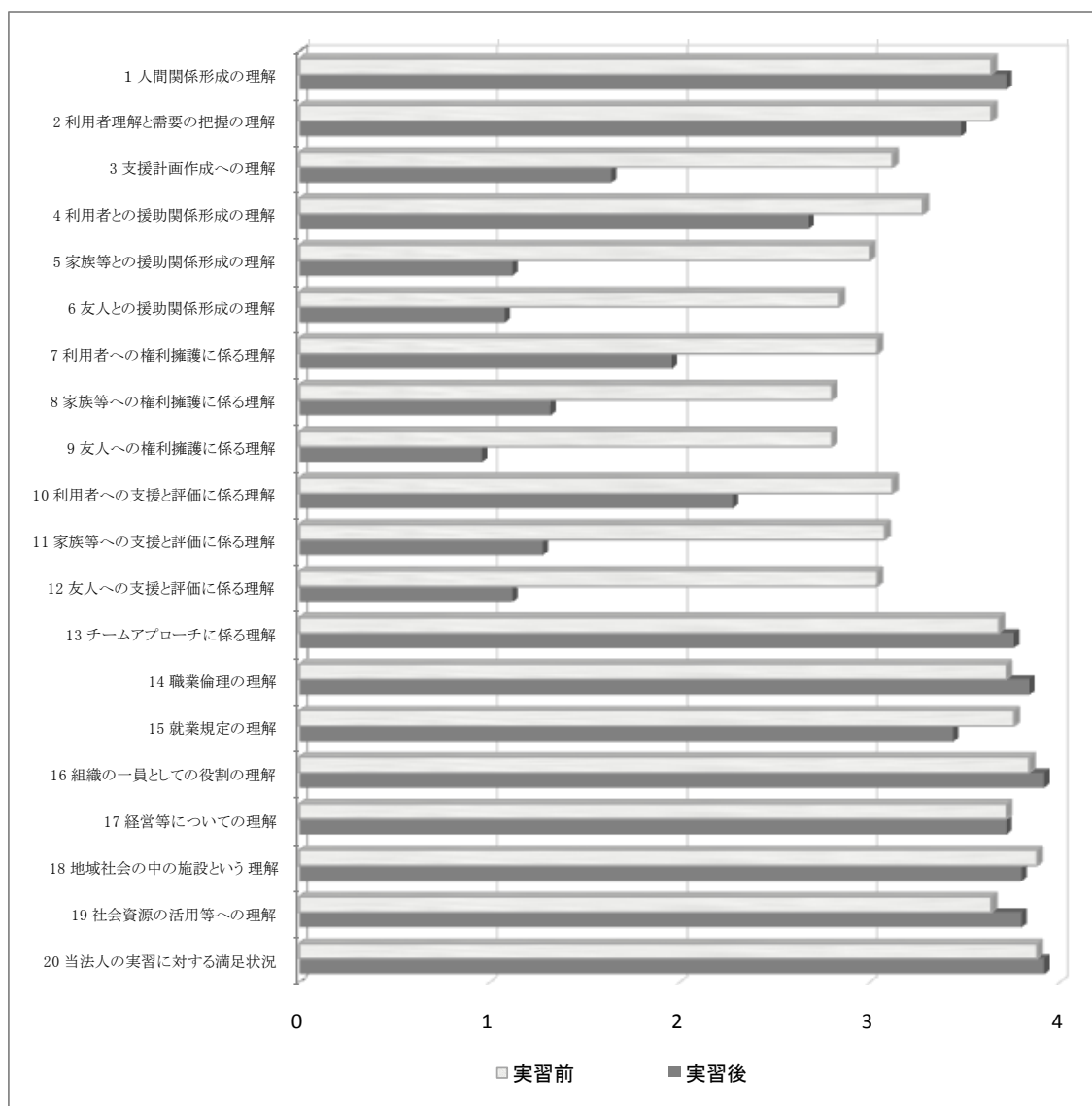


図1 実習前後における実習生の自己評価の変化(項目別)

## V. 考察

今回、本研究によって成された取り組みは、ひとつは相談援助実習で学ぶべき内容の妥当性の検証のための価値ある結果を出していると思われる。時間の量の議論が据え置かれ、限られた時間内に多くの学ぶべきことが盛り込まれ、そこで必要となるのは実習プログラミング、マネジメント機能であるのは理解できる。だが本研究で明らかになった、ある意味多くのことを盛り込んだゆえの限界の部分をいかに教育機関が受け止め連携し、事後教育に結びつけるかが、カリキュラム改訂の成否の鍵であろう。

このことを踏まえつつ、ここでもう一度、のぞみの園の実習を概観する。のぞみの園の相談援助実

習プログラムは、入所利用者、通所利用者支援の場面に関わる時間数が119.5時間、個別訪問や自立支援協議会等への陪席等が22.5時間、医療ケアの場面が7.5時間、課題演習が18.0時間、その他、振り返りや反省会が13.0時間である。

日常生活支援、日中活動支援、地域生活支援などの配属先では、職員から直接指導を受け、介助方法や支援方法を体験により学ぶことから、内容の理解がすすんだことが結果からうかがえた。しかし、エンパワメントといった支援については個人差があった。

一方、利用者の家族支援や他職種との連携、地域との関わりについては、利用者本人との関係性が見えづらく、実習指導者から説明を受けた後でもイメージすることが難しかったことがわかった。

権利擁護に関わる演習や講義では、ソーシャルワークの理念や目的、職業倫理について触れ、人権尊重や社会正義といったソーシャルワークの根幹部分について説明したが、実際の場面との結びつきが難しかったと思われる。

今年度の結果を含めて2年間の実践結果から、学生の認識と実際では、①実習前は出来なかったが、実習では出来なかった、②実習前は出来ないと思ったが、実習では出来た、③実習前は出来ると思い、実習後も出来た、という3つのパターンがあることがわかった。①と②は、質問項目3～12に集中しているということがわかった。指導項目では、いずれも個人を取りまく支援環境、ネットワーキングの項目に該当し、現場実習では目の前にその事象がないため、実習指導者が説明したが、「ネットワークのイメージがわからない」、「経験がないのでわからない」、「ケアプラン作成が難しかった」という言葉が、振り返りや反省会の中で聞かれた。こうした内容については、再度、実習プログラム・マニュアルを検討してはいくものの、今後の実習のすすめ方のひとつの提案として、利用者の生活場面や活動場面などに配属する方法から、利用者Aさん個人に配属し、生活の流れに沿って、本人の活動場面に付き添い、それぞれの場面で実施している支援内容や方法、技術、そこに関わる職種、支援者やシステムを通して、チームアプローチ、ネットワーキング、プログラムが理解できるような実習の受入方法も有効な手法であると思われる。

最後に、コミュニケーションに個別性のあるのぞみの園の利用者と関わる中で、ソーシャルワークの基本たる信頼関係や、それをつくるためのプロセスを経験し、その難しさや重要性を学ぶことのできる相談援助実習が、のぞみの園では確実になされていることを強調しておきたい。

## 謝辞

本研究に取り組むにあたり、日本社会事業大学の蒲生俊宏先生、東洋大学の小澤温先生、高崎健康福祉大学の金井敏先生に御指導いただきましたこと、また、調査にご協力いただきました実習生の皆様に心より深く感謝申し上げます。

## 注

- i 独立行政法人制度では、国の関与を極力制限し、法人の自主性・自律性の発揮を期待される一方で、法人は、公共性の高い業務を担うことから、その業務を確実に実施することが求められている。法人は、中期目標に掲げられた目標を達成するための方策等について具体的な計画を中期計画として定め、自ら定めたその計画に従い自主性・自律性をもって業務を遂行することとしているが、この中期計画については、中期目標に従った

- 業務の確実な実施のため事前のコントロールとして主務大臣による認可が必要となる。
- ii 自由記述回答結果は、「施設のあり方が理解出来た」、「作り込まれた計画書でした」、「多様性からたくさんのことを学ぶことが出来た」、「連携ということも学ぶことが出来た」、「多くの事が得られた」、「地域移行での実習が印象的」、「その人に会った支援の違いについて学べた」などの回答であった。

## 文献

- 1) 社団法人日本社会福祉士会：社会福祉士実習指導者テキスト，(2008)。
- 2) 柳田正明：「社会福祉援助技術現場実習指導」における実習期間中の訪問指導の必要性について－障害福祉分野で実習を行った学生の自己評価から－，日本社会事業大学研究紀要第53集，(2006)。
- 3) 日本社会事業大学実習教育室：社会福祉援助技術現場実習Ⅱ実習評価表作成に関する基礎的研究報告書．日本社会事業大学，東京，(2003)。
- 4) 柳田正明：実習施設との共同による新カリキュラムに対応した相談援助実習プログラムの開発報告書．平成20年度日本社会事業大学共同研究報告書，(2009)。
- 5) 原田将寿：重度知的障害者施設における相談援助実習プログラム開発に関する基礎的研究－国立のぞみの園モデル構築に向けて(中間年度)－，日本社会福祉学会第58回秋季大会，(2010)。

資料

相談援助実習に関するアンケート

学校名

氏名

このアンケートの目的は、国立のぞみの園が開発中の新カリキュラムに対応した相談援助実習プログラムの妥当性を検証するためのものです。実習生の実習課題の達成度を評価するものではありません。質問項目は厚生労働省より提示されている相談援助実習で学ぶべき内容に準拠しております。 今回の国立のぞみの園で実習を行うにあたり、以下の項目についてこれまでの学校等での事前学習を踏まえて判断し、あてはまる番号を1つだけ○をしてください。なお、分析にあたっては学校名、個人名については特定されないよう十分配慮いたします。		できている	まあできている	あまりできていない	できていない
問1	学生は実習をとおして、利用者やその関係者、施設職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について理解していますか。	4	3	2	1
問2	学生は実習をとおして、利用者理解とその需要の把握について理解していますか。	4	3	2	1
問3	学生は実習をとおして、支援計画の作成について理解していますか。	4	3	2	1
問4	学生は実習をとおして、利用者との援助関係の形成について理解していますか。	4	3	2	1
問5	学生は実習をとおして、利用者の家族や親族、後見人と援助関係の形成について理解していますか。	4	3	2	1
問6	学生は実習をとおして、利用者の友人と援助関係を形成することについて理解していますか。	4	3	2	1
問7	学生は実習をとおして、利用者への権利擁護について理解していますか。	4	3	2	1
問8	学生は実習をとおして、利用者の家族や親族、後見人への権利擁護について理解していますか。	4	3	2	1
問9	学生は実習をとおして、利用者の友人への権利擁護について理解していますか。	4	3	2	1
問10	学生は実習をとおして、利用者への支援（エンパワメントを含む）とその評価について理解していますか。	4	3	2	1
問11	学生は実習をとおして、利用者の家族や親族、後見人への支援（エンパワメントを含む）とその評価について理解していますか。	4	3	2	1
問12	学生は実習をとおして、利用者の友人への支援（エンパワメントを含む）とその評価について理解していますか。	4	3	2	1
問13	学生は実習をとおして、多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際について理解していますか。	4	3	2	1
問14	学生は実習をとおして、社会福祉士としての職業倫理を理解していますか。	4	3	2	1
問15	学生は実習をとおして、社会福祉士としての職員の就業などに関する規定を理解していますか。	4	3	2	1
問16	学生は実習をとおして、組織の一員としての役割と責任を理解していますか。	4	3	2	1
問17	学生は実習をとおして、施設の経営やサービスの管理運営の実際について理解していますか。	4	3	2	1
問18	学生は実習をとおして、当施設が地域社会の中の施設であることを理解していますか。	4	3	2	1
問19	学生は実習をとおして、当施設で具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発を行っていることを理解していますか。	4	3	2	1
問20	あなたは国立のぞみの園の実習内容及び指導方法に対して満足していますか。	4	3	2	1
問21	実習に対する要望・感想等をお書きください。				